

『個人情報保護マネジメントシステム規格の見直しと サイバーセキュリティの最新情報についての報告』

12月20日に発行された『JIS Q 15001:2017』をご覧になった方は、少なからず戸惑いを抱いたのではないのでしょうか。

『改正個人情報保護法』をベースにしていることはもちろんですが、他のマネジメントシステム規格との整合性を図ったり、参考扱いながら安全管理措置が具体的に記されていたりして、2006年版の倍以上のページ数にのぼるという結果になっています。しかしながら、私たちの運用負荷が倍になるわけではありません。新たに発行された個人情報保護マネジメントシステム規格のポイントを正しく理解するため、実際の編纂作業に携わった新保教授に解説いただきます。

また、本セミナーのもう一つのテーマとして取り上げてきたサイバー攻撃が、私たちの印刷事業者にとっても、直接の被害をもたらすようになってきました。とはいえ、「見えない相手」「見えない攻撃」に対処するには、私たち守る側は圧倒的不利な立場に立たざるを得ません。このたび、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも登場され、日本および日本の企業を狙う攻撃に対して、最前線で立ち向かわれているサイバーディフェンス研究所の名和様を講師にお招きし、“攻撃者”の視点から、巧妙化、悪質化するサイバー攻撃を、図解を交えて解説いただきます。

ぜひ、多くの方のご参加を賜りたく、ご案内申し上げます。

記

日 時：平成30年1月22日（月）14:00～16:45（13:30開場）
会 場：TKP新橋汐留ビジネスセンター4階 ホール401（定員100名）
東京都港区新橋4-24-8 TEL. 03-4577-9240
対 象：日印産連の会員団体・企業の皆さま
参加費：会員3,000円、非会員5,000円（消費税込み）

◆◆◆◆◆ テーマ名／講師 ◆◆◆◆◆

- 『個人情報保護マネジメントシステム規格の見直し』
講師 慶應義塾大学 総合政策学部 教授 新保 史生 様
- 『業務基盤のIT化の進展により、見えなくなっているサイバー攻撃と被害事例』
講師 (株)サイバーディフェンス研究所 専務理事／上級分析官 名和 利男 様

◆◆◆◆◆ お申込み方法 ◆◆◆◆◆

- ◆ 裏面の「参加申込用紙」にご記入の上、下記までFAXして下さい。
〒104-0041 中央区新富1-16-8 日本印刷会館7階
(一社)日本印刷産業連合会 プライバシーマーク審査センター
FAX 03-3553-6091 TEL 03-3553-6065
- ◆ 申込締切：平成30年1月15日（月）
定員（100名）に達し次第締め切らせていただきますので、お早めにお申込み下さい。
- ◆ お申込を頂いた後に、申込書に「聴講No」を記入の上FAX致します。当日必ずご持参下さい。
(開催日前日の午前中までに届かない場合はご連絡下さい。

聴講 No.があることを確認の上、当日はこちらの参加申込用紙をご持参下さい

宛先：(一社)日印産連 プライバシーマーク審査センター 行 FAX 03-3553-6091
第1回個人情報保護研究セミナー『個人情報保護マネジメントシステム規格の見直しと

サイバーセキュリティの最新情報についての報告』

聴講Noなきは無効

【日時】平成30年1月22日(月)14:00 ~ 16:45(13:30より受付開始)

【参加費用】会員3,000円、非会員5,000円(当日資料、消費税含む) 当日、現金にてお支払い下さい(領収書発行)。

参加申込用紙

聴講 No.

会社名	
部署名	
氏名(ふりがな)	様
所属団体名	
所在地(会社)	〒
電話	
F A X	※必ずご記入ください。

聴講 No.

下記の個人情報のお取り扱いに関する事項について、同意の上、FAXして下さい。

(個人情報のお取り扱いについて)

- ・事業者の名称：(一社)日本印刷産業連合会 担当部署責任者：プライバシーマーク審査センター 上村 護
- ・個人情報保護管理者：担当常務理事 TEL 03-3553-6065 FAX 03-3553-6091
- ・利用目的：弊会がお預かりした上記の個人情報は、セミナー参加のための手続き及び連絡に利用します。
- ・第三者への提供及び委託：取得した個人情報を第三者に提供、委託することはありません。
- ・開示対象個人情報の開示等及び問合せ窓口について：本人からの求めにより、本セミナーが保有する開示対象個人情報の利用目的の通知・開示・内容の訂正・追加または削除・利用の停止・消去等(「開示等」といいます。)に応じます。開示等に応じる窓口は、「SR部長」です。
- ・本セミナー参加申込で取得した個人情報は、セミナー終了後に弊会にて削除いたします。

(注意事項)

1. 1枚につき1名様お申しいただけます。複数ご参加の場合はコピーしてお申込下さい。
2. 当日、現金にてお支払い下さい(領収書発行)。
3. キャンセルの場合は必ずご連絡下さい。プライバシーマーク審査センター TEL 03-3553-6065
4. お申込がありましたら申込書に「聴講 No.」を記入の上、FAX致します。当日必ずご持参下さい。開催日前日の午前中までに届かない場合はご連絡下さい。聴講 No.なきは無効です。
5. このセミナーの案内状に記載の講師、講演内容が事前の告知内容と異なる場合がございます。
6. 定員に達しご参加いただけない場合は、その旨ご連絡いたします。
7. お問合せ先(一社)日本印刷産業連合会 プライバシーマーク審査センター TEL 03-3553-6065
開催日当日の連絡は090-2488-4845にてお受けします。

<会場案内図> 東京都港区新橋 4-24-8 TKP 新橋汐留ビジネスセンター 4階 ※ご来場の節は、公共の交通機関をご利用下さい。



◆新橋駅(JR山手線)
<烏森口・徒歩4分>

◆新橋駅(都営地下鉄浅草線)
<A1番出口・徒歩3分>



TKP新橋汐留ビジネスセンター
(旧TKP新橋ビジネスセンター)
東京都港区新橋 4-24-8
2 東洋海産ビル

日印産連 情報セキュリティ部会主催
平成29年度 第1回個人情報保護研究セミナー

『個人情報保護マネジメントシステム規格の見直しと サイバーセキュリティの最新情報についての報告』

12月20日に発行された『JIS Q 15001:2017』をご覧になった方は、少なからず戸惑いを抱いたのではないのでしょうか。

『改正個人情報保護法』をベースにしていることはもちろんですが、他のマネジメントシステム規格との整合性を図ったり、参考扱いながら安全管理措置が具体的に記されていたりして、2006年版の倍以上のページ数にのぼるといって結果になっています。しかしながら、私たちの運用負荷が倍になるわけではありません。新たに発行された個人情報保護マネジメントシステム規格のポイントを正しく理解するため、実際の編纂作業に携わった新保教授に解説いただきます。

また、本セミナーのもう一つのテーマとして取り上げてきたサイバー攻撃が、私たちの印刷事業者にとっても、直接の被害をもたらすようになってきました。とはいえ、「見えない相手」「見えない攻撃」に対処するには、私たち守る側は圧倒的不利な立場に立たざるを得ません。このたび、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも登場され、日本および日本の企業を狙う攻撃に対して、最前線で立ち向かわれているサイバーディフェンス研究所の名和様を講師にお招きし、“攻撃者”の視点から、巧妙化、悪質化するサイバー攻撃を、図解を交えて解説いただきます。

記

日時：平成30年1月22日（月）14:00～16:45（13:30開場）
会場：TKP新橋汐留ビジネスセンター4階 ホール401（定員100名）
東京都港区新橋4-24-8 TEL.03-4577-9240
対象：日印産連の会員団体・企業 約100名
参加費：会員3,000円、非会員5,000円（消費税込み）

プログラム概要：

- 14:00-14:05 挨拶 情報セキュリティ部会長 凸版印刷(株)法務本部 成澤 晃一
- 14:05-15:35 慶應義塾大学 総合政策学部 教授 新保 史生 様
『個人情報保護マネジメントシステム規格の見直し』
- 15:35-15:45 休憩
- 15:45-16:45 (株)サイバーディフェンス研究所 専務理事／上級分析官 名和 利男 様
『業務基盤のIT化の進展により、見えなくなっているサイバー攻撃と被害事例』

講演概要：

1. 慶應義塾大学 総合政策学部 教授 新保 史生 様

『個人情報保護マネジメントシステム規格の見直し』

JIS Q 15001 : 2017 について、マネジメントシステムに関する要求事項を記載した本文と管理策を記載した附属書 A (規定) とに分離した規格票の構成となっている趣旨、附属書 A の理解を助けるための参考情報を記載した附属書 B (参考) 及び附属書 C (参考) 並びに新規格と旧規格との対応を示した附属書 D から構成される規格の内容について解説する。

<新保 史生氏プロフィール>

慶應義塾大学総合政策学部教授 博士 (法学)。専門は、憲法、情報法、ロボット法

「JIS Q 15001 改正原案作成委員会」検討部会長、総合科学技術・イノベーション会議専門員、情報ネットワーク法学会「ロボット法研究会」主査、憲法学会常務理事、情報通信学会常務理事、法とコンピュータ学会理事、総務省情報通信政策研究所特別上級研究員。

2. (株)サイバーディフェンス研究所 専務理事/上級分析官 名和 利男 様

『業務基盤の IT 化の進展により、見えなくなっているサイバー攻撃と被害事例』

これまでの「IT利活用」は、業務の効率性及び生産性の向上を狙ったものが多かったのですが、最近では業務の基盤そのものをIT化する流れが加速しています。これに対し、攻撃側は、その業務の基盤そのものに対するサイバー攻撃を始めており、検知されにくく、攻撃効果の大きい手法を考え出して実行しています。我々からは「見えないサイバー攻撃」が増えており、残念ながら実際にそれらに気づけていないのです。本講演では、その実情について図解を入れて説明致します。

<名和 利男氏プロフィール>

(株)サイバーディフェンス研究所 専務理事/上級分析官

海上自衛隊において、護衛艦のCOC(戦闘情報中枢)の業務に従事した後、航空自衛隊において、信務暗号・通信業務/在日米空軍との連絡調整業務/防空指揮システム等のセキュリティ担当(プログラム幹部)業務に従事。

その後、国内ベンチャー企業のセキュリティ担当兼教育本部マネージャ、JPCERT コーディネーションセンター早期警戒グループのリーダーを経て、(株)サイバーディフェンス研究所に参加。専門分野であるインシデントハンドリングの経験と実績を活かして、CSIRT(Computer Security Incident Response Team)構築及び、サイバー演習(机上演習、機能演習等)の国内第一人者として、支援サービスを提供。最近は、サイバーインテリジェンスやアクティブディフェンスに関する活動を強化中。

以上